



平成 26 年 7 月 24 日

各 位

会 社 名 株式会社ジーンテクノサイエンス
代 表 者 名 代表取締役社長 河 南 雅 成
(コード番号: 4584 東証マザーズ)
問 合 せ 先 執行役員管理部長 上 野 昌 邦
(TEL. 011-876-9571)

ノーステック財団 イノベーション創出研究支援事業への採択決定に関するお知らせ (有機分子触媒を用いた新規抗インフルエンザウイルス薬の開発)

この度、室蘭工業大学、帯広畜産大学及び当社の共同研究グループによる「有機分子触媒を用いた新規抗インフルエンザウイルス薬の開発」が、公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（略称「ノーステック財団」）が募集する「平成 26 年度 ノーステック財団 研究開発助成事業 イノベーション創出研究支援事業 スタートアップ研究補助金」に採択されましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

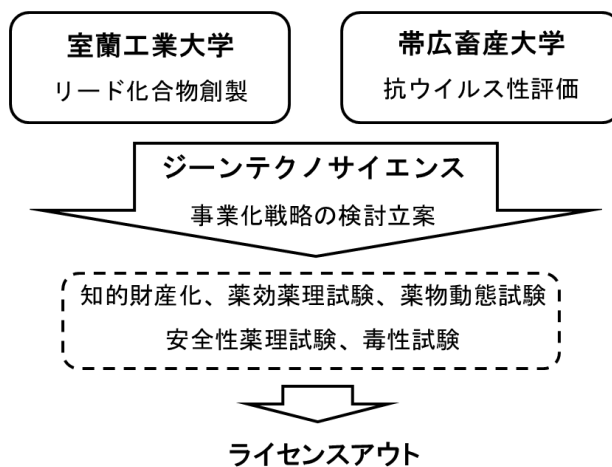
1. 共同研究開始の経緯

当社は、安定的な収益基盤を確立するためバイオ後続品事業に経営資源を集中しておりますが、新薬事業においても効率的に新規シーズの探索を進めております。このような活動の中で、室蘭工業大学及び帯広畜産大学の研究成果を活用することで新規抗インフルエンザウイルス薬の開発が可能となり、また、補助事業に採択されたことでコスト負担の軽減だけでなく北海道の地域振興への貢献を図ることができると判断し、本共同研究の開始に至ったものであります。

2. 共同研究の内容及び目的

近年、高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1）が遺伝子変異することで人にも感染しやすくなり、各国において厳重な対策がとられています。また、タミフルやリレンザなど有効な抗インフルエンザウイルス薬も開発され、一般に普及してきております。しかしながら、タミフルに耐性をもつウイルスが出現するなど、パンデミックの危険が完全に回避されたとは言えず、新規抗インフルエンザウイルス薬の開発が急がれております。本事業では、新型ウイルスの出現や変異による新型インフルエンザウイルスに対抗するため、室蘭工業大学、帯広畜産大学及び当社の共同研究グループにより、新規抗インフルエンザウイルス薬の開発を行います。具体的には、有機分子触媒を用いることでタミフル合成時の中間体を効率よく合成可能であることから、変異により形状変化したタミフル耐性株の酵素の活性中心ポケットを塞ぐことのできる物質を探索し、有効薬の開発につなげてまいります。

3. 研究開発体制



4. 今後の見通し

本件による当社の平成 27 年 3 月期の業績への影響は、軽微の見通しであります。

以 上